

# 呼吸器ニュース

2021年 No.1

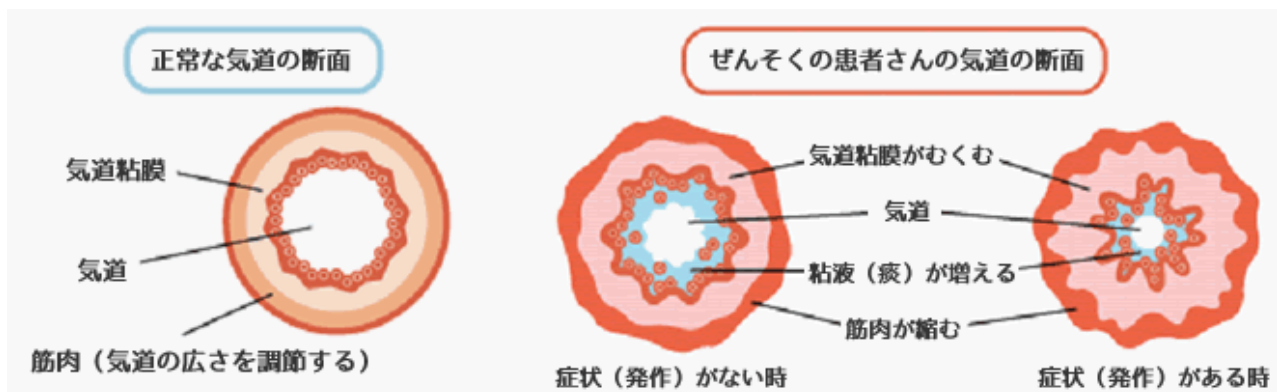
西淀病院・のぞと診療所

呼吸器グループ

2021年3月発行

## ぜんそく

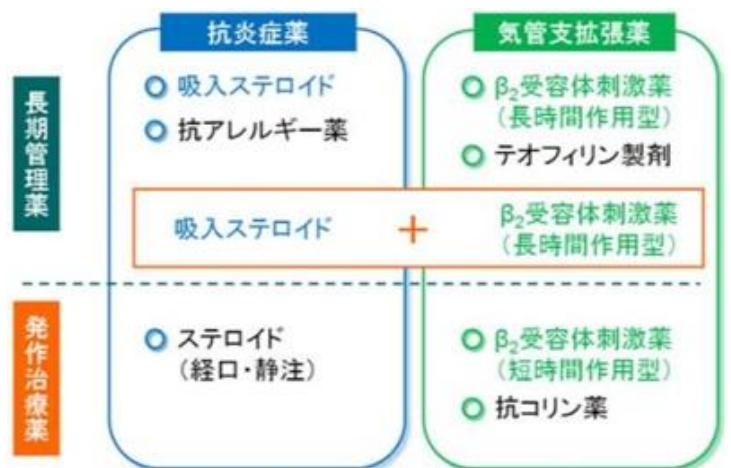
この病気は空気の通り道(気道)に炎症が起こり、息苦しくなる病気です。気道が狭くなって咳や呼吸困難などの発作が起こります。気道が「ゼーゼー、ヒューヒュー」となる喘鳴も起こります。ぜんそくのある人はいつでも気道に炎症がある状態で、粘膜が過敏になりわずかな刺激で発作を起こしてしまいます。発作が起こっていない時期に気道の粘膜の炎症を抑えておかないと、粘膜がいつでも過敏な状態になってしまうことが、大きな問題です。



## 薬で発作を予防する・抑える

### 発作を予防する薬

気道の炎症を抑える効果のある吸入ステロイドが治療の中心です。ステロイドと薬と気管支を拡張させる長時間作用性 $\beta_2$ 刺激薬のとの合剤の吸入(アドエア、シムビコート、レルベアなど)が多く使われます。これらの薬は発作を予防することが目的なので発作がなくても使い続けます。

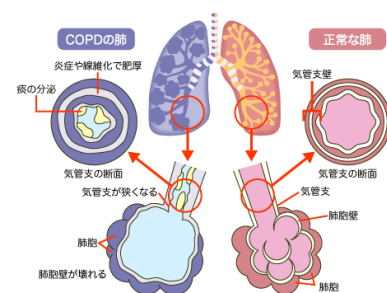


### 起こった発作を抑える薬

交感神経を刺激し気道を広げる短時間作用性 $\beta_2$ 刺激薬(メプテンなど)を吸入します。発作が起こったときにすぐに使います。

# COPD(慢性閉塞性肺疾患)

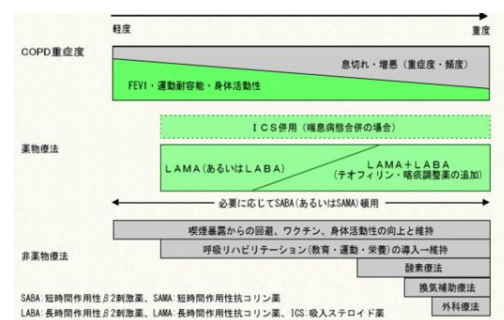
主にたばこを吸う人に起こる肺の病気です。たばこの煙には、さまざまな有害物質が含まれているため、たばこを長く吸い続けていると、次第に肺や気管支が炎症を起こし、せきやたんが出るようになります。肺の炎症が進んでいくと、酸素を取り込む肺胞の壁が破壊され、酸素と二酸化炭素の交換ができなくなります。その結果、息を一気に吐けなくなるので、必要な量の酸素を取り込めず、すぐに息切れしてしまいます。一度壊れた肺胞の壁は元には戻りません。



## 治療の進め方

### 非薬物療法

治療の基本は禁煙です。喫煙をやめることで、せきやたん、息切れなどの症状が軽くなるだけでなく、肺機能の低下もゆるやかになります。呼吸リハビリテーションでは、息切れを起こしにくい呼吸法や生活動作のしかたを学びます。



### 薬物療法

気管支拡張薬の吸入を使うのが基本になります。息切れや息苦しさを改善して体を楽に動かせるようにします。気管支拡張薬にはいくつか種類があり効果の持続時間も、長時間のものと短時間のものがあり息切れの症状の程度や、運動時などの状況によって選択されます。吸入ステロイド薬は、喘息を合併している人や増悪を繰り返す人に用いられることがあります。気道の炎症を抑える効果に優れています。COPDに対しては単独では効果がなく気管支拡張薬と併用されます。

### 吸入気管支拡張薬

SABA(短時間作動型 $\beta_2$ 刺激薬):メプテンなど

LAMA(長時間作動型抗コリン薬):スピリーバ、シーブリなど

LABA(長時間作動型 $\beta_2$ ):セレベント、オンブレスなど

LAMA+LABA:ウルティブロ、アノーロ、スピオルトなど



### 吸入ステロイド薬(ICS)との合剤

ICS+LABA:アドエア、シムビコート、レルベアなど

ICS+LABA+LAMA:テリルジー、ビレーズトリ

